

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第5部門第3区分

【発行日】平成17年9月22日(2005.9.22)

【公開番号】特開2005-69542(P2005-69542A)

【公開日】平成17年3月17日(2005.3.17)

【年通号数】公開・登録公報2005-011

【出願番号】特願2003-298663(P2003-298663)

【国際特許分類第7版】

F 2 3 G 5/24

F 2 3 G 5/44

F 2 3 L 7/00

F 2 7 B 1/12

F 2 7 B 1/26

F 2 7 D 7/02

【F I】

F 2 3 G 5/24 Z A B Z

F 2 3 G 5/44 B

F 2 3 L 7/00 C

F 2 3 L 7/00 Z

F 2 7 B 1/12

F 2 7 B 1/26

F 2 7 D 7/02 Z

【手続補正書】

【提出日】平成17年6月24日(2005.6.24)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

産業廃棄物や一般廃棄物などのごみを焼却する竪型ごみ焼却炉において、炉内に開口されたごみ投入口の先端下方の中段までの炉壁を、ごみ投入口側が垂直となり下方が狭められた偏心円錐形に構築するとともに、該偏心円錐形部下端から焼却灰排出口に至る下方の炉壁を末広がり状に構築したことを特徴とする竪型ごみ焼却炉。

【請求項2】

前記ごみ投入口の先端に、ごみを中心部方向に投入するための案内部を設けたことを特徴とする請求項1記載の竪型ごみ焼却炉

【請求項3】

請求項1又は2記載の竪型ごみ焼却炉を用いて、シュレッダーダストや医療系廃棄物を含む産業廃棄物などの高発熱量廃棄物を燃焼制御する方法であって、

炉内最下部に形成される灰層に送入する燃焼空気に、飽和水蒸気または過熱水蒸気あるいは排ガスを添加するとともに、該灰層上方に堆積するおき燃焼層に、飽和水蒸気または過熱水蒸気あるいは排ガスを送入することを特徴とする、竪型ごみ焼却炉における高発熱量廃棄物の燃焼制御方法。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0026

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0026】

請求項1に係る発明の縦型ごみ焼却炉は、産業廃棄物や一般廃棄物などのごみを焼却する縦型ごみ焼却炉において、炉内に開口されたごみ投入口の先端下方の中段までの炉壁を、ごみ投入口側が垂直となり下方が狭められた偏心円錐形に構築するとともに、該偏心円錐形部下端から焼却灰排出口に至る下方の炉壁を末広がり状に構築したものである。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0027

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0027】

請求項2に係る発明の縦型ごみ焼却炉は、前記ごみ投入口の先端に、ごみを中心部方向に投入するための案内部を設けたものである。

請求項3に係る発明の縦型ごみ焼却炉における高発熱量廃棄物の燃焼制御方法は、請求項1又は2記載の縦型ごみ焼却炉を用いて、シュレッターダストや医療系廃棄物を含む産業廃棄物などの高発熱量廃棄物を燃焼制御する方法であって、炉内最下部に形成される灰層に送入する燃焼空気に、飽和水蒸気または過熱水蒸気あるいは排ガスを添加するとともに、該灰層上方に堆積するおき燃焼層に、飽和水蒸気または過熱水蒸気あるいは排ガスを送入することを特徴とする。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0028

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0028】

以上述べたように、本発明によれば、炉内に開口されたごみ投入口の先端下方の中段までの炉壁を、ごみ投入口側が垂直となり下方が狭められた偏心円錐形に構築したことで、炉内のごみ層の偏りが防止でき、漏斗部の容積を有効に利用することができる。